

会 議 録

会議の名称		令和5年度 第2回 深谷市総合教育会議	
開催日時		令和6年2月14日(水) 午後1時30分開会・午後2時30分閉会	
開催場所		深谷市役所 3階 大会議室	
議長氏名		小島市長	
出席者氏名		出席者名簿のとおり	
事務局出席者氏名		出席者名簿のとおり	
会議事項	1. 議事 <協議事項> (1) “渋沢栄一翁の精神”を広める取組について <報告事項> (1) ヤングケアラーアンケートの調査結果について		2. 会議結果承認
会議の経過 (議事の要旨)		別紙のとおり	
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度第2回深谷市総合教育会議 次第 ・令和5年度第2回深谷市総合教育会議 構成員名簿 ・“渋沢栄一翁の精神”を広める取組(協議資料1) ・“渋沢栄一翁の精神取組概要図”(参考資料1) ・ヤングケアラーアンケートの調査結果について(報告資料1) ・ヤングケアラー 概要ポンチ画(参考資料2-1) ・ヤングケアラー 調査結果の概要 小学校(参考資料2-2) ・ヤングケアラー 調査結果の概要 中学校(参考資料2-3) 		
その他の事項			
会 議 録 の 確 定			
確 定 年 月 日		議 長 署 名	
令和6年 3 月 5 日		小島 進	

別紙

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容(要旨)・決定事項
	<p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 教育長あいさつ</p> <p>4 議事 ※深谷市総合教育会議運営要綱第4条第1項の規定により、市長を議長として議事を進行</p> <p>議長 事務局</p> <p>丸山教育長 職務代理</p> <p>島崎委員</p> <p>事務局</p> <p>《協議事項》 (1) “渋沢栄一翁の精神”を広める取組について (事務局から説明)</p> <p>【“渋沢栄一翁の精神”を広める取組について】 (1) 本取組の内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに構築するのは難しいと思うが、作文コンクールについて事業を全国化するにあたり、甲子園のように地区予選を開催し、その地区予選を通過した作品が全国大会へとエントリーできる仕組みも面白いのではないかと考える。 ・各地区で審査することにより、様々な地域の方をより多く巻き込んで事業を展開することができ、また、一括で審査するよりも作業の分散化を図ることができるため、審査時間を短縮・軽減化できると考えられる。 ・入賞者に対して、賞状のほか副賞などを設けることにより、多くの応募者に参加していただけたらと思う。 <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の「ふるさと ふかや・渋沢学フォーラム」、渋沢栄一政策推進室の「渋沢栄一ひとりづくりカレッジ推進事業」については、連続して充実した取り組みとなっており、周りから好評の意見を聞いている。感謝申し上げます。 ・今回新たな取組として議題にあがっている作文コンクールのほかにも事業案等があるのか？ <p>(学校教育課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の取組を行う経緯としては、既に実施している忠恕の心を受け継ぐ取組として、「ありがとう」の手紙を展開しているところであるが、関係団体の方や心の教育推進協議会の方から立志の精神を受け継ぐ取組についても全国に広げていくのが良いのではないかと声をいただき、今回の「志と未来をつなぐ」栄一翁作文コンクールの提案に至った。

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 (要 旨) ・ 決 定 事 項
事務局	<p>(渋 沢 栄 一 政 策 推 進 課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新 一 万 円 札 発 行 に 向 け て 新 紙 幣 の プ レ イ ベ ン ト と し て 、 深 谷 市 内 の 国 際 ロ ー タ リ ー ク ラ ブ と 連 携 し 、 新 紙 幣 発 行 に 向 け て 機 運 醸 成 を 図 る た め に 実 施 す る 公 開 座 談 会 や 深 谷 博 覧 会 な ど 、 皆 さ ん と 一 緒 に 新 札 発 行 に 向 け て 盛 り 上 げ て い く 様 々 な イ ベ ン ト を 予 定 し て い る 。 ・ ま た 、 来 年 度 に 向 け て は 中 高 生 を 対 象 に 「 起 業 創 業 プ ロ グ ラ ム 」 と し て 、 中 高 生 が 進 路 を 考 え る う え で 参 考 と な る よ う な 取 り 組 み を 実 施 す る 予 定 で あ る 。
島 崎 委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様 々 な 取 組 が 予 定 さ れ て お り 、 楽 し み で あ る 。 ・ こ の タ イ ミ ン グ を 逃 さ ず に 、 子 ど も か ら 大 人 ま で 全 国 へ 渋 沢 栄 一 翁 の 精 神 を 広 め て い く こ と が 重 要 で あ る と 考 え る 。 ・ 今 後 実 施 予 定 の 立 志 を テ ー マ と し た 作 文 コ ン ク ー ル に つ い て は 、 現 在 実 施 し て い る 「 あ り が と う 」 の 手 紙 事 業 も 同 時 展 開 し て い く こ と が 考 え ら れ る の で 、 生 徒 の 負 担 や 学 校 の 負 担 も 考 慮 し て 、 詳 細 事 項 に つ い て 精 査 し て い く 必 要 が あ る と 考 え る 。
荒 井 委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 忠 恕 の 心 を 広 め る 「 あ り が と う 」 の 手 紙 だ け で な く 、 全 国 に 渋 沢 栄 一 翁 の 立 志 の 精 神 を 広 め る 取 組 は 素 晴 ら し い と 考 え る 。 <p>作 文 コ ン ク ー ル だ け で な く 、 様 々 な 取 組 を 通 し て 立 志 の 精 神 を 広 め て 欲 し い と 思 う 。</p>
久 保 田 委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今 回 の 作 文 コ ン ク ー ル に つ い て は 、 意 義 の あ る 取 組 だ と 考 え る 。 <p>忠 恕 の 心 だ け で な く 、 立 志 の 精 神 と の 両 輪 で 行 っ て い く の は い い こ と で あ り 、 全 国 の 人 た ち が 深 谷 を 知 る 良 い 機 会 に な る の で は な い か と 考 え る 。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作 文 コ ン ク ー ル の 受 賞 者 の メ リ ッ ト と し て 、 深 谷 ら し さ が あ れ ば よ り 注 目 さ れ る 取 組 に な る と 考 え る 。 <p>例 え ば 、 渋 沢 栄 一 に 絡 め て 子 供 が 楽 し め る も の (新 一 万 を 模 し た 名 刺 の 作 成 な ど) や 深 谷 に 本 社 が あ る 企 業 の 見 学 な ど の 学 習 体 験 を 副 賞 と し て つ け る と よ り 面 白 い 取 り 組 み に な る の で は な い か と 思 う 。</p>
教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子 供 た ち の 自 分 探 し の 旅 の 助 け に な る の が 教 育 で あ る 。 <p>新 一 万 円 札 発 行 で 渋 沢 栄 一 の 精 神 や 考 え 方 に も 注 目 が 集 ま る 中 で 、 こ の 作 文 コ ン ク ー ル を 発 信 し て い く 。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 0 0 年 後 の 社 会 を グ ラ ン ド デ ザ イ ン で き た の が 、 渋 沢 栄 一 翁 で あ る 。 <p>栄 一 翁 は 、 社 会 全 体 の 共 存 共 栄 の あ り 方 を 探 り 、 そ れ が S D G s の 考 え 方 と 繋 が る 部 分 が あ る 。</p> <p>そ れ を 生 誕 の 地 で あ る 深 谷 市 か ら 発 信 す る こ と に 意 義 が あ る と 考 え る 。</p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教 育 に 対 し て は 、 自 己 の 利 益 だ け で な く 、 社 会 全 体 の 利 益 を 考 え る こ と の 大 切 さ を 伝 え て い く 必 要 が あ る 。 ・ 子 供 た ち に 対 し て 、 立 志 の 精 神 を 伝 え 、 将 来 の 道 し る べ を 示 し て あ げ る の が 大 人 た ち の 役 目 で あ る 。 <p>教 育 委 員 会 と 市 長 部 局 が 連 携 し て 取 り 組 む こ と が 必 要 で あ る と 改 め て 感 じ た 。</p>

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 (要 旨) ・ 決 定 事 項
議長	(2) 本取組の懸案事項について
丸山教育長 職務代理	<ul style="list-style-type: none"> ・実施体制及び審査体制については、渋沢栄一記念財団、商工会議所などの関連団体との連携を図り、審査に協力していただくことで、厚みのある取組になると考える。
島崎委員	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな関係団体や多くの人に発信していく必要があると思うので、実行委員会体制でよいと考える。
荒井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・審査体制について、全国から募集する中では審査員の中に著名人がいることで目を引くのではないかと考える。
久保田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会と市長部局だけでなく、関係団体と共に運営していく実行委員会形式がよいと考える。 ・年齢層の幅が広いため、PRしていく際には子供と大人でそれぞれチラシを作成するなどの考慮が必要だと思う。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・ムーブメントを起こす意味でも実行委員会形式がよいと思う。協賛金についても今後の懸案事項として検討していく必要がある。審査体制についても、委員から意見があったように関係団体の役員に審査に加わっていただく必要があると考える。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・皆様からご意見がありましたように、栄一翁の立志の精神をしっかりと継承し、有意義で持続的な取組にしていきたいと思う。そのために、市長部局、教育部局間の連携はもとより、関連企業等と連携した体制作りを進めてまいります。
議長	《報告事項》 (1) ヤングケアラーアンケートの調査結果について
事務局	(事務局から説明)
島崎委員	<ul style="list-style-type: none"> ・深谷市は、先進的にアンケートを実施し、結果を精査して教育委員会と福祉部門の連携した取組を行っている。これにより、手当が必要な児童に支援が行えていると考える。
事務局	5 《その他》
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・作文コンクールについて、トップセールスでの周知も行う予定である。チラシの作成については、迅速に進めていくこと。
	6 閉会 <div style="text-align: right;">以上</div>

